

3. 武蔵野美術大学

1) 学事予定

2019年

4月 8日（月）～ 7月13日（土） 前期授業週間

7月15日（月）～20日（土） 前期補講・講義科目定期試験週間

※7月15日（月）海の日は補講・定期試験を行う。

7月22日（月）～ 8月31日（土）夏季休業

9月 2日（月）～12月21日（土）後期授業週間

※9月16日（月）敬老の日は授業を行う

※9月23日（月）秋分の日の振替休日は授業を行う

※10月14日（月）体育の日は授業を行う

※10月21日（月）～11月2日（土）芸術祭活動期間は授業を行わない

※11月4日（月）振替休日は授業を行う

12月23日（月）～ 1月4日（土）冬季休業

2020年

1月 6日（月）～11日（土） 後期補講・講義科目定期試験週間

2) 事務手続等

○TAC単位互換申請受付 前・後期科目： 3月30日（土）、4月1日（月）、2日（火）

○受講許可学生発表日 前・後期科目： 4月5日（金）[所属大学を通して発表]

3) 事務取扱時間

担当：教務チーム

月曜～土曜〔祝日除く〕 9:00-12:40、13:40-16:30

4) 単位互換履修生証の発行

「TAC単位互換履修生証」を発行しますので、顔写真1枚（縦3cm×横3cm、裏面に氏名記入）を教務チーム窓口にて提出してください。

翌日以降にお渡ししますので、取りに来てください。

5) その他

●講義室配当、変更

1号館の掲示板にて確認してください。

●休講

ホームページ（<http://www.musabi.ac.jp/>）→在学生の方へ→

休講情報（<https://mau.musabi.ac.jp/portalv2/digitalsignage/digitalSignage/cancelTop>）より確認できます。

●試験情報

前期／後期試験の約1カ月前に発表します。1号館の掲示板にて確認してください。

●気象警報に伴う休講

気象庁が多摩北部に「暴風」「暴風雪」「大雪」の気象警報（注意報を除く）を発表した場合は以下の通りとなります。

- ①午前6時00分において発表されている時は、午前を休講等とします。
 - ②午前9時00分において発表されている時は、午後を休講等とします。
 - ③午前9時00分より後に発表された場合は、学長の判断により決定する。
- どの規定に該当しても、本学ホームページ等で確認するようにしてください。
また、定期試験が延期された場合は、別途指示します。

6) 受付窓口

武蔵野美術大学 学生支援グループ教務チーム (1号館2階)

※正門正面の建物が1号館です わからない場合は正門守衛室でお尋ねください

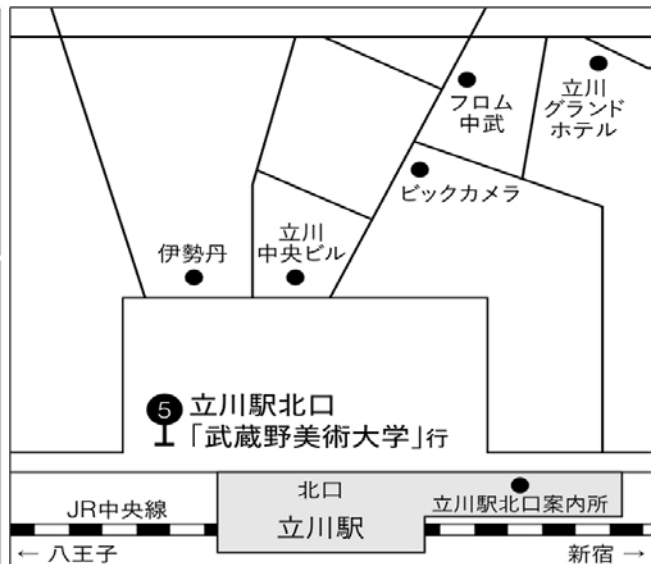
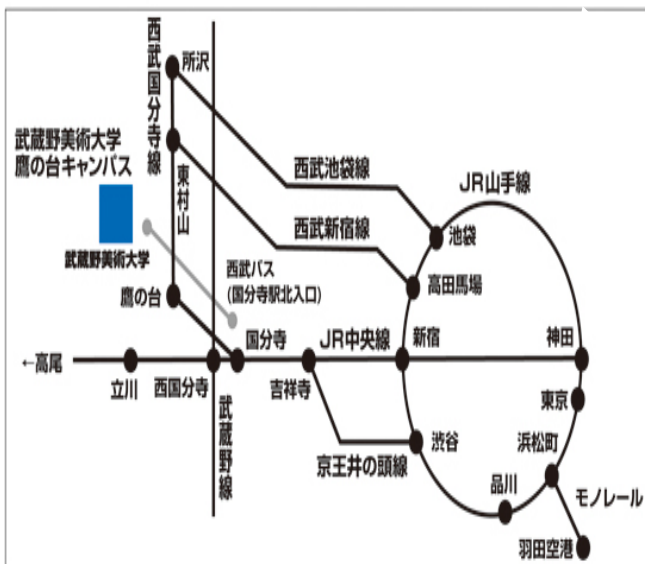
<http://www.musabi.ac.jp/>

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

TEL 042-342-6044 FAX 042-342-6452

交通：

- ①西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
- ②JR中央線国分寺駅北口、西武バス「国分寺駅北入口」発、「武蔵野美術大学」または「小平営業所」行、「武蔵野美術大学」下車（所要時間約20分）
- ③立川バス「立川駅北口」（5番乗り場）より「武蔵野美術大学」行きで約25分、「武蔵野美術大学」停留所下車すぐ



開講科目案内

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目1」>

科目名	「西洋美術史概説 I-1 (通史)」 History of Western Art I-1
単位数	2
開講期	前期 (4月8日 (月) ~7月13日 (土))
担当教員	教授 北澤 洋子 [きたざわ ようこ]
授業時間	月曜 4限 [14:40-16:10]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

古代ギリシア美術から 20世紀初頭の美術までを扱う「通史」の前半部分である。古代ギリシア美術の成立前史から始め、中世美術のほぼ終わるところまでを見る。形の伝承もしくは変容、技法の展開、空間表現方法の変化などの視点から、各時代の作品を見ていく。多数の図版を使用。

到達目標

時代と時代の相互の影響関係を見て取り、理解することにより、自らの問題として作品を見ることの意味を考える。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前史：先史時代の洞窟壁画
- 第3回 前史：古代エジプト美術
- 第4回 前史：エーゲ海の美術
- 第5回 古代ギリシア美術 彫刻①
- 第6回 古代ギリシア美術 彫刻②
- 第7回 古代ギリシア美術 壺絵
- 第8回 古代ローマ美術 共和制時代
- 第9回 古代ローマ美術 帝政時代
- 第10回 古代末期美術／初期キリスト教美術
- 第11回 初期中世美術
- 第12回 ロマネスク美術
- 第13回 ゴシック美術①
- 第14回 ゴシック美術②
- 第15回 まとめ

履修上の留意点

特に無し。

準備学習

展覧会等の機会を捉えて、可能なら実物を見てほしい。

成績評価の方法

学期末にレポートを提出。出席。

テキスト

作品データ資料を配布する。

参考文献（作品）等

参考文献・展覧会を授業中に紹介する。

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目2」>

科目名	「西洋美術史概説 I-2 (通史)」 History of Western Art I-2
単位数	2
開講期	後期 (9月2日 (月) ~12月21日 (土))
担当教員	教授 北澤 洋子 [きたざわ ようこ]
授業時間	月曜 4限 [14:40-16:10]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

古代ギリシアから 20世紀初頭までの美術を扱う「通史」の後半部分である。中世を概観した後、近世ルネサンス美術から近代までの作品を対象とする。古代ギリシアから近世フランスまで、数百年の間隔を置いて繰り返し表現された「古典的 (クラシック) な」形に視座を置くことで、かえって西洋の美術作品の多様な展開を実感したい。多数の作品図版を見る。

到達目標

古代から近代にいたる美術史の流れを、変化する作品のつらなりとして理解し、記憶する。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 西欧中世美術概観
- 第 3 回 ビザンティン美術
- 第 4~5回 イタリア・ルネサンス 1300年代
- 第 6~7回 イタリア・ルネサンス 1400年代
- 第 8~9回 イタリア・ルネサンス 1500年代
- 第 10 回 イタリア・ルネサンス ヴェネツィア派
- 第 11 回 バロック美術
- 第 12 回 ロココ美術、新古典主義美術
- 第 13 回 印象主義
- 第 14 回 キュビズム
- 第 15 回 まとめ

履修上の留意点

特に無し。

準備学習

展覧会等の機会を捉えて、可能なら実物を見てほしい。

成績評価の方法

学期末にレポートを提出。出席。

テキスト

作品データ資料を配布する。

参考文献 (作品) 等

参考文献・展覧会は、授業内に紹介する。

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目3」>

科目名	「東洋美術史概説 I-1 (インド美術史)」 History of Oriental Art I-1
単位数	2
開講期	前期 (4月8日 (月) ~7月13日 (土))
担当教員	教授 朴 亨國 [ばく ひょんぐく]
授業時間	火曜 3限 [13:00-14:30]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

日本では「仏教発祥の地」として広く知られているインドでは、紀元前3500年から造形活動が行われヒンドゥー教をはじめ、仏教、ジャイナ教、イスラム教などの宗教美術が多く制作された。その数多の宗教美術品のうち、各時代を代表する遺跡や遺品を中心に、現地で撮影した写真を流しながら講義を行う。

到達目標

日本に伝わったインド、特に仏教（密教も含む）の造形作品を多くみて理解すること。

授業計画

1. インド美術史の概要
2. インダス文明
3. インダス川の岩絵
4. バールフットの浮彫
5. サーンチーの浮彫
6. 初期仏教美術（仏像の出現）
7. ガンダーラ美術
8. マトゥラー美術
9. サールナート美術
10. アジャンター石窟
11. グプタ朝のヒンドゥー教美術
12. エローラ石窟
13. イスラム美術
14. まとめ
15. 試験

履修上の留意点

インドの歴史、哲学、地理などの一般的な概念を身につけておくこと。

準備学習

全集など、図書館にあるインド関連書籍の関連図版をみて、授業に参加すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験を総合的に評価する。

テキスト

特に定めないが、授業内容によって随時紹介するか配布する。

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目4」>

科目名	「日本美術史概説Ⅰ-2（通史）」 History of Japanese Art I-2
サブタイトル	縄文から近代まで
単位数	2
開講期	後期（9月2日（月）～12月21日（土））
担当教員	教授 玉蟲 敏子 [たまむし さとこ]
授業時間	火曜 2限 [10:40-12:10]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

縄文時代から平安時代までを中心に日本の美術の歴史を通覧する。現代アートの作家たちを惹きつけ、海外からも注目を集める日本美術。その造形的な特質と歴史的な変遷を、時代を追いながら見ていきたい。鎌倉・室町・桃山・江戸の美術は適宜ふれていく。

到達目標

日本の近世から近代にかけての美術の流れと各時代の様式や特徴を基礎知識として身につける。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：授業内容の確認、教材の説明など
- 第2回 縄文の美の発見
- 第3回 古代の造形：弥生絵画と装飾古墳
- 第4回 飛鳥時代：仏教美術の将来
- 第5回 奈良時代：花開く天平の美
- 第6回 平安前期：密教美術と唐風文化
- 第7回 平安中期（1）：やまと絵の成立 仮名の登場 蘆手のゆしみ
- 第8回 平安中期（2）：浄土教の美術と法華経の美術
- 第9回 平安後期（1）：耽美的な装飾技法
- 第10回 平安後期（2）：絵巻の登場と代表的作品
- 第11回 鎌倉時代：宋風の将来
- 第12回 室町時代：水墨画と雪舟
- 第13回 桃山時代：狩野派と障壁画
- 第14回 近世から近代へ：美術に見る断絶と継続
- 第15回 まとめ

履修上の留意点

パワーポイント等で示された個々の作品を理解するいっぽうで、日本美術の流れや全体のストーリーの把握に努める。

準備学習

画像や図版だけでは作品のスケールや質感、全貌は伝わらない。美術館に足を運び、モノとしての作品にじかにふれること。

成績評価の方法

出席20%、期末試験80%で評価する。

テキスト

特定のテキストはないが、配布資料を中心に授業を進め、適宜、参考資料で補足する。

参考文献（作品）等

- 辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会 2005年
- 辻惟雄・泉武夫編『日本美術史ハンドブック』新書館 2009年
- 『日本美術全集』全20巻 講談社 1990-94
- 『日本美術全集』全20巻 小学館 2012-16

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目5」>

科目名	「デザイン史 I A」 Design History I A
単位数	2
開講期	前期（4月8日（月）～7月13日（土））
担当教員	教授 松葉 一清 [まつば かずきよ]
授業時間	木曜 3限 [13:00-14:30]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

近代デザインは、19世紀の市民社会の成立と歩調を合わせる形で生まれた。既存のファイン・アート、建築、工芸などと異なる大衆社会を背景にしたデザインの成立をたどる作業を通じて、表現領域としての本義を見定める。そこを手始めに、19世紀の消費社会の成立を背景にデザイナーたちがどのようにして社会の期待にこたえていったかを学習する。

到達目標

デザインという領域概念の成立を、歴史的に理解する。

授業計画

- 第1週 考察／デザイン、デザイン史とはなにか
- 第2週 デザインの社会的意味～アートとの違い
- 第3週 水晶宮の衝撃～近代デザインの始まり
- 第4週 モリスのデザイン思想（1）～赤い家
- 第5週 モリスのデザイン思想（2）～生産とデザイン
- 第6週 モリスからアーツ・アンド・クラフツへ
- 第7週 マッキントッシュの革新性
- 第8週 ヨーロッパを席卷したジャポニスム
- 第9週 ベルエポックのメトロポリス
- 第10週 アール・ヌーボー～ギマールのパリ
- 第11週 ミュシャのグラフィズム
- 第12週 エミール・ガレとナンシー派
- 第13週 ウィーン分離派、ウィーン工房
- 第14週 20世紀デザインの萌芽
- 第15週 前期授業内容の総括

成績評価の方法

学期末にレポート提出。出席数も重視する。

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目6」>

科目名	「デザイン史ⅡA」 Design History ⅡA
単位数	2
開講期	後期（9月2日（月）～12月21日（土））
担当教員	教授 松葉 一清 [まつば かずきよ]
授業時間	木曜 3限 [13:00-14:30]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

近代デザインが市民社会のなかで市民権を確立していく過程を、20世紀の経済・産業との関わりのなかで考察する。高度工業化社会、大量消費社会の定着とともに、デザインはなにを期待され、どう変わっていったかを学ぶ。そして、工業主義が強大化するなか、デザインの自立を回復する動きが起きた1980年代以降の状況へと至り、現在から近未来へのデザインのあり方を考える。

到達目標

デザインの近代における発展と現在の問題点を理解する。

授業計画

- 第1週 導入／工業の20世紀とデザイン
- 第2週 規格論争～ドイツ工作連盟の明暗
- 第3週 ベルギーの貢献～ヴァン・ド・ヴェルドの悲運
- 第4週 突出するオランダ～デ・ステイルの活動
- 第5週 バウハウスの思想（1）～近代デザインの確立へ
- 第6週 バウハウスの思想（2）～政治的激動の結末
- 第7週 ノイエ・フランクフルト～民衆のデザイン
- 第8週 アール・デコ～消費都市の成熟
- 第9週 アール・デコ～源泉としての異郷
- 第10週 ストリームライン～移動と速度の表徴
- 第11週 レーモンド・ローウィのデザイン思想
- 第12週 資本主義と宣伝～ニューヨーク・ワールズ・フェア
- 第13週 メンフィスとポスト・モダン
- 第14週 デザイン史を踏まえてデザインを考察する
- 第15週 後期授業内容の総括

成績評価の方法

学期末にレポート提出。出席数も重視する。

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目7」>

科目名	「西洋美術史概説VI-1（現代）」 History of Western Art VI-1
サブタイトル	20世紀初頭のアヴァンギャルド美術
単位数	2
開講期	前期（4月8日（月）～7月13日（土））
担当教員	教授 田中 正之 [たなか まさゆき]
授業時間	木曜 4限 [14:40-16:10]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

20世紀初頭、ヨーロッパではフォーヴィスムやキュビズム、表現主義、未来派など、革新的な表現を追求する様々なアヴァンギャルド美術の運動が展開した。本講義では、おもにそれらの運動や芸術家たちについて論じ、主要な動向や芸術的理念を整理しつつ、作品をより深く理解していくための手がかりを探っていく。

到達目標

20世紀初頭の西洋美術の芸術家と作品について知識と理解を深める。

授業計画

- 第1回 20世紀初頭の前衛美術に関する総論
- 第2回 マティスとフォーヴの画家たち（1）：マティスの初期作品とフォーヴの誕生
- 第3回 マティスとフォーヴの画家たち（2）：フォーヴの展開（ドラムン）
- 第4回 マティスとフォーヴの画家たち（4）：フォーヴの展開（ヴラマンク）
- 第5回 マティスとフォーヴの画家たち（5）：フォーヴ以後のマティス
- 第6回 ピカソ（1）：初期作品からバラ色の時代
- 第7回 キュビズムの誕生：ピカソとブラック
- 第8回 キュビズム以降のピカソ
- 第9回 キュビズムの広がり：サロン・キュビストの画家たち
- 第10回 イタリア未来派（1）：未来派宣言
- 第11回 イタリア未来派（2）：未来派の表現
- 第12回 イタリア未来派（3）：未来派の展開
- 第13回 ドイツ表現主義（1）：ブリュッケの画家たち
- 第14回 ドイツ表現主義（2）：青騎士の画家たち
- 第15回 まとめ

履修上の留意点

作品を理解する出発点は、作品をよく見ることである。国内で西洋美術の実作品を見る機会は少ないが、文献等で図版をよく見て復習してほしい。

準備学習

授業前および授業後に、参考書において講義中に言及した作品をよく確認しておくこと。

成績評価の方法

期末レポート、出席状況、授業態度で総合的に評価する。

参考文献（作品）等

- 井口壽乃、田中正之、村上博哉『西洋美術の歴史8 20世紀 - 越境する現代美術』中央公論新社
- 末永照和編『カラー版 20世紀の美術』美術出版社
- H.H. アーナスン『現代美術の歴史』美術出版社
- ニコス・スタンゴス『20世紀美術：フォーヴィスムからコンセプチュアル・アートまで』PARCO出版
- 『世界美術大全集 第25巻 フォーヴィスムとエコール・ド・パリ』小学館
- 『世界美術大全集 第26巻 表現主義と社会派』小学館
- 『世界美術大全集 第28巻 キュビズムと抽象美術』小学館

<武蔵野美術大学-2019年度「指定科目8」>

科目名	「西洋美術史概説VI-2（現代）」 History of Western Art VI-2
サブタイトル	抽象芸術の誕生と展開
単位数	2
開講期	後期（9月2日（月）～12月21日（土））
担当教員	教授 田中 正之 [たなか まさゆき]
授業時間	木曜 4限 [14:40-16:10]
講義室	4月に、1号館掲示板に掲示します

授業概要

20世紀の前半、ヨーロッパではそれまでにない新たな芸術表現として抽象美術が誕生し、発展した。本講義では、抽象美術の誕生と発展に大きな役割を果たした芸術家たち、とりわけカンディンスキー、モンドリアン、マレーヴィチについて論じ、抽象美術が担った役割やその意義についての理解を深めていく。

到達目標

20世紀前半の西洋の抽象美術の芸術家と作品についての知識と理解を深める。

授業計画

- 第1回 20世紀前半の抽象美術に関する総論
- 第2回 カンディンスキー（1）
- 第3回 カンディンスキー（2）
- 第4回 カンディンスキー（3）
- 第5回 モンドリアンとデ・ステイル（1）：ドゥースブルフの抽象美術論
- 第6回 モンドリアンとデ・ステイル（2）：デ・ステイルの展開
- 第7回 モンドリアンとデ・ステイル（3）：モンドリアンの抽象絵画
- 第8回 ロシア・アヴァンギャルド（1）：ラリオーノフ、ゴンチャロフ
- 第9回 ロシア・アヴァンギャルド（2）：マレーヴィチの初期作品
- 第10回 ロシア・アヴァンギャルド（3）：マレーヴィチとスプレマチズム
- 第11回 ロシア・アヴァンギャルド（4）：構成主義（ロトチェンコなど）
- 第12回 ピカビアとクプカ
- 第13回 クレー
- 第14回 アルプ
- 第15回 まとめ

履修上の留意点

作品を理解する出発点は、作品をよく見ることである。国内で西洋美術の実作品を見る機会は少ないが、文献等で図版をよく見て復習してほしい。

準備学習

授業前および授業後に、参考書において講義中に言及した作品をよく確認しておくこと。

成績評価の方法

期末レポート、出席状況、授業態度で総合的に評価する。

参考文献（作品）等

井口壽乃、田中正之、村上博哉『西洋美術の歴史8 20世紀 - 越境する現代美術』中央公論新社

末永照和編『カラー版 20世紀の美術』美術出版社

HH. アーナスン『現代美術の歴史』美術出版社

ニコス・スタンゴス『20世紀美術：フォーヴィスムからコンセプチュアル・アートまで』PARCO出版

『世界美術大全集 第25巻 フォーヴィスムとエコール・ド・パリ』小学館

『世界美術大全集 第27巻 ダダとシュルレアリスム』小学館

『世界美術大全集 第28巻 キュビズムと抽象美術』小学館